
傍の遺言

水面鏡 白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傍の遺言

【Nコード】

N0080G

【作者名】

氷面鏡 白

【あらすじ】

兄上の隣が、僕の居場所だった――

(前書き)

まあ、連載の合間に気晴らしに書いたモノです

「兄上……鴨太郎です。」

大好きな双子の兄の部屋に続く障子の前で、鴨太郎と名乗った少年はワクワクと、兄の入室の許可を待っていた。

何故なら、今日いつも通う寺子屋で満点を取り、鷹久に見せる為こうして待っている。

母にも見せたかったが、『鷹久の体に障る』と咎められた。

しかし時刻は、夕暮れ時。母は晩飯の支度をしている為、部屋にいるのは鷹久ただ一人。

「鴨だね…入っていいよ。」己と似た優しい声が、障子越しに聞こえる。

鴨太郎は内心喜んでいるが、外は真剣な面持ちをして試験の紙を背中に隠して部屋に入った。

「兄上…体の調子は如何（いかが）です？」

「そんなに堅くならないでよ…兄弟なんだからさ、体は大丈夫だよ。」

部屋の主…鷹久は、かしこまった鴨太郎の姿を見て苦笑いしながら

答える。

「でも…次男は長男にも敬（うやま）いなさいって…母上が。」

鴨太郎は曇らせた顔を横に向け、少し寂しげな瞳で向こうを見つめた。

長男は家を継ぐ。それが当たり前…なのだ。

「母さんの前だけだろ？ 僕の前では、それをして欲しくないな。」
鷹久は困ったように笑って、『いつもの鴨でいいよ。』と付け足した。

「では…鷹兄！！ 僕寺子屋で、満点とったんだよ。」

鴨太郎は、背中から満点という文字が書かれた試験用紙を鷹久の視線に合わせてそれを見せる。

「凄いや、鴨はきっと将来はどこかのお偉いさんになるよ。」

鴨太郎の頭から、手が延びて来てご褒美として力強く撫でた。

「へへ…。」

鴨太郎は、鷹久の切ない瞳に気づかず。
はにかんで暫く撫でられた。

「…あ、もうすぐ母上が来る。どやされないうちに逃げた方がいいよ。」

鴨太郎の頭から手を離し、茶目っ気にそう警告した。

鴨太郎は、それを聞いて軽く会釈をして障子を優しく閉めた。
自室に向かおうとすると、咳き込み吐血をする鷹久の声が聞こえた。

鷹久は、結核を患（わづら）っていた。

当時は、天人が伝えた治療法さえ知らず。

不治の病として人々から恐れられる病だった。

「……。」

深みがある青い空が広がる屋上に、真選組の参謀となった。
涙を流しながら、屋上景色を眺める鴨太郎の姿だけがいた。

手元には一通の手紙を握っており、内容は次の通りである。

【拝啓 寒空が広がる季節になりましたが、お元気ですか？
この手紙は、兄としてあなたに送る最期の言葉を伝えたくて、筆を
取りました。

きつとあなたは、母のせいですつと肩身の狭い思いをしてきたので
しょう。

それは、病弱な体として生まれてきた僕の責任だと思っています。

あなたは、僕より将来（サキ）が広がっている。

例えば、僕を置いて後ろを振り替えず真っ直ぐ歩いてください。

最後に僕は、あなたのような弟を持って誇りに】

手紙は、そこで一本の線になり乾いた血痕が付着していた。

「伊藤先生、そろそろ会議が始まりますよ。」

部下が、屋上の扉を開けてもうすぐ会議があるのを告げた。

「分かったすぐに行く。」

鴨太郎は泣いているのを隠して背中を向けたまま、そう返事を返した。

「鷹兄……。」

鴨太郎の微かな声はビル風にかき消された。

嗚呼…己の居場所は泡沫（うたかた）の如く消えてしまった。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0080g/>

傍の遺言

2010年10月9日19時36分発行